

第12回東北女性腎臓病医の会(TSWN)が2023年9月15日に開催されました。今回はコロナ禍以降初めて本会場と岩手会場に参集し、同時にオンライン参加も可能としたハイブリッド開催となりました。例年は日曜日の日中に開催していましたが、今回は当会代表世話人の宮崎真理子先生が第53回日本腎臓学会東部学術大会の大会長をお務めになられたため、その応援と記念として学会の前夜に開催しました。

はじめに Opening Remarks として弘前大学の島田美智子先生にご挨拶をいただきました。島田先生は東北女性腎臓病医の会に2011年の初回から参加されておられます。久しぶりにお互いに顔を見られる会場で、会のこれまでの道のりと、そもそも医師数が少ない東北地方で、専門を同じくする女性医師が連携する意義についてお話ししてくださり、和やかに会が始まりました。

特別講演は北海道大学の長谷川智香先生に「CKD-MBD モデル動物におけるエボカルセトの骨病態改善作用」のご講演を賜りました。長谷川先生は骨形態学を基盤として骨代謝の研究を継続されておられ、大変美しい骨構造のスライドをご供覧いただきながら、骨代謝の基礎から腎臓内科医が日常的に直面する慢性腎臓病患者の骨病変の構造的な問題、エボカルセトをはじめとした薬剤の作用によるその変化等、わかりやすくお話していただきました。また、長谷川先生が真摯にそして柔軟に研究に進んでいらした道程を教えていただき、若手の先生方にも勇気をいただいたと思います。会場からの質問も多く、時間が足りなかったと感じられるほどでした。

会の終了後には本会場近くのワインバーに場所を移し、二次会として東日本女性腎臓医交流会を開催しました。今回初めて会に参加してくださった先生方ともすぐに打ち解け、女性どうし遠慮なく先輩がたのキャリアパスや仕事と家事の両立法など、あちこちでおしゃべりが盛り上がりました。

参加人数は、研究会本体には仙台会場17名、Web視聴15名、岩手集合会場2名の参加をいただき、交流会では研究会に間に合わなかった先生もかけつけてくださり18名のご参加をいただきました。

今回は開催時間、開催形態ともこれまでとは異なることが多く、参加者にはご負担が大きかった部分もあるかもしれませんが、それでも久しぶりの会場に参集しての勉強会は本当に楽しく有意義で、来年またお会いできるのが楽しみです。

ご参加いただいたみなさま、お疲れさまでした。

文責：青空クリニック 藤倉恵美